

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 氏名 | 兵 頭 多津男 |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 |
| 学位授与番号 | 乙 第 1745 号 |
| 学位授与の日付 | 昭和62年 3 月31日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） |
| 学位論文題目 | 急性心室中隔虚血による血行動態および心電図変化（実験的検討） |
| 論文審査委員 | 教授 寺本 滋 教授 中山 沃 教授 木村郁郎 |

学位論文内容の要旨

実験的に犬を用いて純粹な心室中隔の急性虚血を作製しそれが左右の心機能におよぼす影響について検討し、あわせて心電図について検討した。

第一中隔枝の結紮により、心外膜開放下では左室拡張末期圧が上昇したが、右室圧は変化しなかった。心外膜閉鎖下では左室拡張末期圧とともに右室拡張末期圧も上昇した。

左前下行枝の結紮により中隔虚血と同程度の左室自由壁の虚血を作製し、血行動態を検討すると、心室中隔虚血の場合よりも変化はつよかった。

心電図変化としてはⅡ、Ⅲ、aVF誘導でのST部分の低下がみられ、更に約1/3の例で房室伝導または心室伝導障害が出現した。しかしST部分の上昇、異常Q波は出現しなかった。

以上より心室中隔障害は、心外膜開放時には左室のみに影響を与えたが、心外膜の存在によって血行動態の異常はより強調されるとともに右心室にも影響を与えた。また左室自由壁障害にくらべ血行動態に与える影響は小さく心室中隔は左室自由壁とは別に取り扱う必要があることを示している。心電図変化としては心室中隔虚血に特有の変化は見出せなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は犬を用いて心室中隔の急性虚血を作製し、左心室および右心室機能に及ぼす影響を検討したものであるが、血行動態および心電図変化に関して重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。